

遊便

遊便 (第14号)

発行：医療法人 仁風会 八雲病院
発刊日：平成30年 4月 5日

巻頭言

第Ⅱ病棟 看護主任

平井 良則

私の好きな本を紹介したいと思
います。

アメリカのオー・ヘンリーとい
う作家の「賢者の贈り物」という物語
です。英語の原題・タイトルは「The
Gift of the Magi」といいます。

あらすじは、貧しい若い夫婦が、
慎ましい儉約生活を送っています。
クリスマスが近づいたが、相手に贈
るプレゼントを買うことができな
い状況です。妻のデラは、夫のジムに
プレゼントをするお金を工面する為
に、髪の毛を売って時計をつける鎖
を買った。夫のジムは時計を売って櫛
を買いました。

「大事なものは物でなく、心だ」と思
います。髪は時間が経てば、いずれ
また伸びます。時計も働けばいつか
同じようなものを買うことができま
す。2人の贈り物は無駄になって残
念な結果になってしまいました。

この2人は本当に大事な贈り物、相
手を思いやる気持ちと交換できたの
で、とても幸せな2人、賢い2人だ
と思いました。

私の勤める認知症治療病棟の患者
さんの多くは、知覚、感情や思考を
うまく伝達できません。認知症の進
行に伴い、言語の障がいが見られ、
スムーズに会話ができなくなり、言
葉の数と意味を失ってしまい、その
ために、「意思の疎通」、「心の通
い合い」、「お互いに理解しあうこ
と」が困難になっていきます。

当法人の理念は、「心の声を大事
にします」とあります。Aー(人口
知能)がどんなに発達しようと、人
の魂や心に深く関わる専門職の一人
として、患者さんの言葉に耳を傾
け、その背景を感じ取れる看護師を
目指していきたいと思えます。

遊便第一四号：もくじ

巻頭言	1
新Dr紹介	2
防災訓練報告	3
地域連携を考える 地域ケア勉強会	3
コスモス 忘年会	3
法人アクセス	4

医師紹介

八雲病院では、新たにドクターをお迎えしました。
この場を借りて、岡崎先生をご紹介します。

1月より八雲病院に入職した岡崎哲也です。益田出身で昭和50年、精神科医としてスタートし、鳥大2年、湖陵病院で20数年、名古屋で2年、出雲と益田で精神科クリニックを15年やりました。

古希を前にして、八雲病院で人生最終ステージとしての働き場所を与えていただき感謝です。

これまで、様々な場所で多くの印象深い人たちと出会うことができました。山岳、弓道、ダンスの仲間、湖陵での先輩や同僚、これまで出会った患者さん達。「今頃彼らはどうしているんだろう」と、ふっと顔や名や声を思い出します。いろんな人に出会い影響を受けながらここまでやってきました。

精神科の仕事は、様々な生きづらさを持って、僕らの前に現れる人たちの人生を、一緒に生きて行くことではないかという気がします。幾通りもの人生を経験することができることは人間通になるのにまたとない位置にあるはずです。（目

薬、日薬、人薬）

集団精神療法の治癒因子（アーヴィンD・ヤーロム）の言葉の一つに「希望の点滴」という言葉があります。グループのメンバーが、お互いに希望を点滴し合い、支え合うことで集団は生き生きし元気になり回復していくんだと思うと、仲間がいるというのは素敵なことではないでしょうか。

私の好きな格言：「始まりと思うのも自分。もう終わりだと思うのも自分。人生は祭りだ、一緒に楽しもう！」（映画監督フェデリコ・フェリーニ）

よろしくお願い致します。

（岡崎哲也）



源助公園の桜

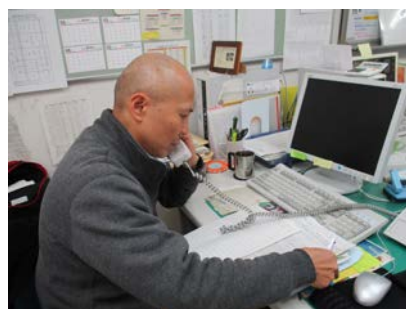
相談支援とランニング

ビ・フレンジング 森脇英人

「私たちは心の声を大事にします」という理念を本法人は基軸としています。利用者さん達の「声にならない声」、「声に出せない声」をうかがい知ろうと努めるところが理念の柱です。

出来る限り、それらの「声」を受け止め、並行して私の思いをお伝えできるような対話に努めるようにしています。

人の話をキチンとうかがうということは、とても多くのエネルギーが必要です。エネルギーチャージと気分転換を兼ねて、ランニングを楽しんでいます。これから暖かくなります。皆さんもいかがですか？



電話相談中の
森脇さん

地域連携を 考える

障がい者虐待を考える

仁風会では、「お互いの顔の見えるネットワーク作り」を目的に、大庭・八雲地区の民生委員の方と、医療・福祉・介護サービスの関係者を対象に、認知症や心のケアに関する地域に向けた勉強会を毎年行っています。

平成29年12月2日に、第9回目となる地域ケア勉強会を開催しました。

今回は、講師として松江市家庭相談室の保健師さん3人をお招きし、「障害者虐待防止法と松江市障がい者虐待防止センターの役割について」と題して、話題

大庭・八雲・古志原地区 地域ケア勉強会

提供と事例を中心に、意見交換を行いました。

「障がい者虐待が疑われる時には、家庭相談室に通報の義務があります」との説明に少したじろいだ感がありました。保健師さんから「敷居を低くして“相談”下さい」との説明があり、参加者の方からも安堵の声が聞かれました。

「家庭相談室のことを初めて知った」「更に連携を深めたいと思った」「毎回参加しており、とてもよい勉強会です」などの感想をいただきました。ご参加くださり、誠にありがとうございました。（森脇）

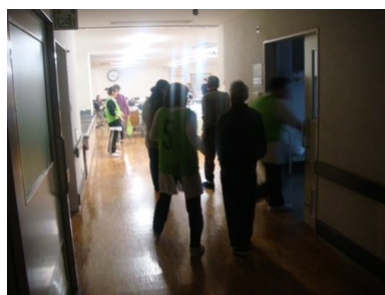
法人総合防災訓練

平成29年12月8日において、八雲病院及び障害福祉サービス事業所コスモスを中心に総合防災訓練を実施しました。

今回も松江南消防署の署員の方に来院して頂き、各部署間の連携訓練や消火栓・消火器の使用方法についての指導、認知症治療病棟・コスモスにて、夜間火災を想定した避難誘導及び119番通報訓練を実際に行い、署員の方から訓練時の

問題点等を訓練指導して頂きました。

訓練中は、非常ベルが鳴る環境の中、訓練者はそれぞれの決められた役割を確認しながら緊張感のある訓練を行いました。（狩野）



訓練の様子

コスモス忘年会

コスモスが始まって15年。忘年会はこれまででは茶話会をするだけでしたが、近年は自分たちでうどんを作る事が主流になっています。

粉をこね、足で踏み、寝かせて延ばして幅を揃えるように切るのが一連の作業ですが、寝かせている時間を使って3種類の鍋の用意に取り掛かります。

しょうゆ、味噌、キムチ味等を用意し、全員で野菜を切っていきます。うどんを入れて煮るだけにして、次はポイント表彰です。

今年からアミーゴ・P（軽運動やボクササイズ、グランドゴルフ、ストレッチなど健康維持に役立つ体操）というプログラムで参加した数（ポイント）を表彰し、運動に快く参加を促しています。

今後は忘れる忘年会ではなく次年に望む「望年会」と言い換えてもいいかなと思っています。

（小川）



ポイント表彰の様子



わたくしたちは心の声を大事にします
わたくしたちは医療水準の向上に努めます

八雲病院

医療法人 仁風会

○八雲病院（外来診療時間午前中のみ）

平日8：30—12：30／土 8：30—12：30

休診日…日曜日、祝日、お盆、年末年始

松江市大庭町1460-3

電話(0852)23-3456(代表)

FAX(0852)23-3495

・デイケアたんぼぼ（精神科デイケア）

※お問い合わせは代表まで

月曜日—金曜日 午前9：30—午後3：30

・デイケア八雲（重度認知症デイケア）

※お問い合わせは代表まで

月曜日—金曜日 午前9：00—午後3：40

○コスモス（自立訓練【生活訓練】事業所）

松江市大庭町1459-1

電話(0852)23-3360

FAX(0852)23-3370

○ビ・フレンジング（地域活動支援センター・相談支援事業所）

松江市大庭町1461-3

電話(0852)23-4111

FAX(0852)23-4112

○雲陽の里（認知症グループホーム・介護保険）

松江市大庭町1459-1

電話(0852)23-3700

○八雲病院 居宅介護支援事業所 (0852)23-3456(代表)

ご意見箱

広報誌「遊便」に対するご意見・ご感想などございましたら、ぜひ下記までお寄せいただくと喜びます。今後とも医療法人仁風会、広報誌「遊便」共々よろしくお願い致します。

〒690-0033

松江市大庭町1460-3

(医)仁風会

広報委員会0852-23-3456まで

お知らせ

ホームページのご案内

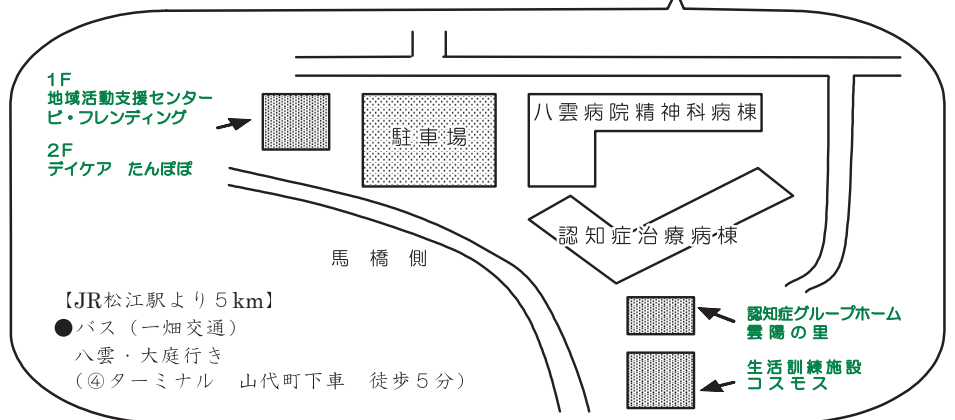
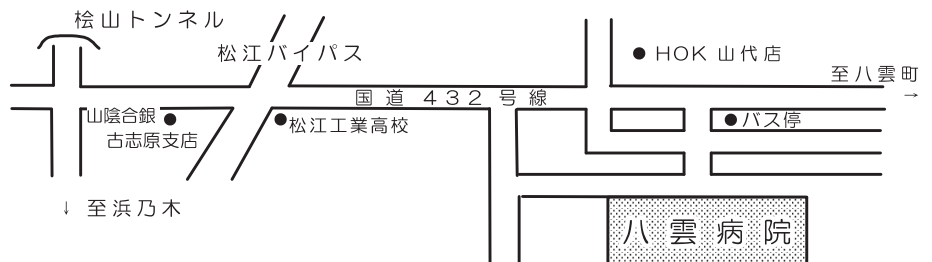
当法人の各種サービスについてホームページで紹介しております。スマートフォンにも対応しています。ぜひご覧ください。

アドレス

<http://www.yakumohp.net/>



【ご案内】



春を迎え、新しい年度が始まりました。
広報誌『遊便』も十四号を迎え、誌面の装いも新たにしました。これからも、当法人の取り組みでいる「心の声を聞く」取り組みを皆さんに分かりやすく届けられるよう、誌面作りに取り組みます。
(浜岡)

編集後記